

海岸で見られる植物たち

ハマナデシコ



科名：ナデシコ科 / 分類：多年草 / 花期：6～11月

ナデシコ科ナデシコ属の多年草で、本州～四国、九州、沖縄の海岸の砂地に自生する。夏～秋に、集散花序を伸ばしピンクや白の花を咲かせる。葉は対生する単葉で、長さ4～8cm、幅1～2.5cm、葉の質は分厚く、艶があり、茎は株状の無毛で下部は木質化する。岩場やコンクリートのすき間などに種が入り込んで花を咲かせており、とても強健。多年草扱いされる事があるが、大きくなると花後に枯れる事が多い。夏頃に花を咲かせる暑さに強いダイアンサスの種類。

ハマヒルガオ



科名：ヒルガオ科 / 分類：多年草 / 花期：5～6月

つる性の多年草で、日本全土の海岸の砂地に生える。砂の中に白色の地下茎を長く伸ばしてふえ、茎は枝分かれして、砂の上を這います。茎に毛は生えておらず、淡い紫褐色をしている。葉は互生し、径1～5cmほどの円腎形で全縁、厚みと光沢がある。開花時期は、5月～6月で、葉の脇から長い柄を出して、花径4～5cmの淡い紅色の花を1つずつつける。花は昼顔(ヒルガオ)に似ているが赤みが強い。稀に白花のものもある。俳句の季語は夏である。

ハマボウフ



科名：セリ科 / 分類：多年草 / 花期：5～7月

葉は1-2回3出複葉で、小葉は楕円形。葉の表面にはクチクラ層が発達しており、肉厚でつやがある。花期以外は葉はあまり高く伸びず、丈が低い。根はゴボウに似て非常に長く、地中深く伸びる。これらの特徴は海浜植物に共通のものである。花期は5～7月ごろで、南方ほど早い。花茎は立ち上がり、大きいものは50cmを越えることもあるが、より背の低いことが多い。白色の毛が多数生える。花序は肉質・白色で、カリフラワーに似る。種子の側面には6～7本のひだがある。

コウボウムギ



科名：カヤツリグサ科 / 分類：多年草 / 花期：4～6月

葉海岸の砂地に生える高さ10～20cmの多年草。長く伸びるやや太い根茎をもち、砂丘上にしばしば群落をつくる。葉は叢生し、幅0.4～0.6cmの線形で、縁がざらつく。ふつう雌雄異株。花茎には鈍い稜があり、平滑。花序には密に小穂をつけ、雄花序は長さ4～6cmの円柱形で黄色い葯がめだち、雌花序は卵形でくすんだ黄色をしている。雌小穂は長さ1.5cmの卵形で、淡い黄緑色。苞はふつうめだたない。果胞は長さ1cm、上端は長い嘴となり、縁に不揃いの歯牙がある。

海岸で見られる植物たち

トベラ



科名：トベラ科 / 分類：常緑低木 / 花期：4～6月

葉は互生。枝先に輪生状に集まる。倒卵形または長倒卵形、ふちは全縁。革質で、表面は深緑色で光沢。雌雄別株。本年枝の先に集散花序を出し、直径2cmほどの白い花を多数つける。花は香りがよい。果実はさく果。直径1～1.5cmの球形。11～12月に灰褐色に熟すと、3裂して、粘った赤い種子を8～12個出す。種子は長さ6～7mmのゆがんだ腎形で、粘液質に包まれる。

ハマニガナ



科名：キク科 / 分類：多年草 / 花期：4～10月

砂浜で見られる多年草。長い走出枝が砂の中を伸びる。葉は互生し、径3～5cmの心形となり、掌状または鳥足状に3～5裂する。葉には厚みがある。葉柄は長い、砂に埋もれるため見えないことが多い。茎先に径3cmほどの黄色い頭花を散房状に2～10個つける。果実は瘦果。

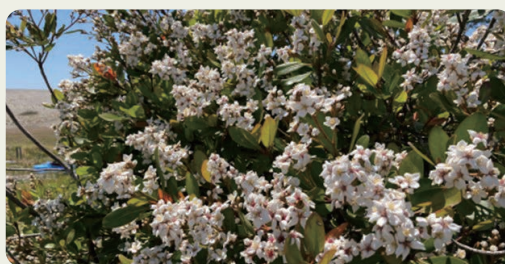
ハマエンドウ



科名：マメ科 / 分類：多年草 / 花期：4～7月

海岸の砂地に生える。まれに湖岸や川岸などにも見られる。全体に粉白色で、茎は角張る。茎は地を這って長さ1mほどになる。花は総状に3～6個つき、旗弁ははじめ赤紫色、のちに青紫色に変わる。まれに白色の花もある。豆果は長さ約5cm、幅約1cmでほとんど無毛。種子は数個。

シャリンバイ



科名：バラ科 / 分類：常緑低木 / 花期：5～6月

車輪状に出る葉と、花序のひとつひとつの花が梅に似ているとこの名がついた。花は白色で初夏に咲く。やや肉厚な葉は長楕円形で、寒い地方では紅葉することもある。秋に黒紫の実をつける。潮害に強い、海岸に近い公園などにもよく植栽されている。

